

薔薇の皇帝

テレスマ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

聞こえますか？

声が聞こえる

体の感覚がない

時間が無いので手短に話します

あなたは死にました。今のあなたは魂だけの状態です

あなたは、あの時死ぬはずではありませんでした。

今あなたは、あるアニメに酷似した世界に転生されようとしています。

アニメの世界

はい、アニメの世界は実在します。

人の思いによって世界は生まれますから。

時間がありません何か望む「力」はありますか？

力

そうですね何か憧れていたモノです

憧れ何に憧れた

そうだ自分は憧れていた

あの紅い薔薇の皇帝に!!

なるほど・・・!!時間がありません、それだけでは不安なので

声が遠のく 意識が消える 最後に見たのは

誰かの綺麗な笑顔だった。

せっかくのクリスマスなので何か書こうと思った
けどアイデアがなかったの

昔、書いてみたもの

続きが思い浮かばないからボツになったもの
を投稿、続かない

目次

プロローグ

「大丈夫？」

「っ!? ……あ？」

今の記憶は？

記憶がぐちゃぐちゃだった。一旦、深呼吸。落ち着いて状況を整理する

今蘇ったのは前世、つまり転生する前の記憶そして今の状況は？

そして目の前の心配そうな少女の顔を見て思い出す

そうだ……近道して公園を通った時、暗い顔の少女を見つけて心配して話しかけたんだ!!けれど逆に自分が心配される事になるとは……。

「大丈夫だ……それで?なぜ暗い顔をしている？」

「……あなたには関係ないの」

暫く沈黙した後、少女はそう答えた

「フム、確かに君の事情に自分はなんら関係が無い。けれど話を聞く事は出来る。」

一度目を閉じて真剣な目で少女に向き合う

「誰かに話すだけでも楽になる事もある……はなしてみんか？」

しばらくすると少女は語り始めた

「フム……なるほどな」

話を聞き終えた後、まず気になっている事を尋ねた。

「そなた……もう少しワガママになってみんか？」

少女は何か言いかけたが真剣な目をみて口を閉ざした

「何が言いたいかというとワガママ度がちと……いや圧倒的に足りぬ!!」

「で、でも良い子にしてなきや」では聞くが、それは家族にそう言われたのか?」そうじゃないの……けど「ならば良いではないか……度が過ぎると迷惑以外の何物でもないが少しはワガママもないと寂しいものだぞ?お互いにな」お互いに?」

「家族ならば、少しのワガママくらい聞いてやるものだ」

「嫌われたりしない?」

少女が不安そうな顔で聞く

「本当に大事な家族ならば、その程度で嫌ったりせぬよ……そなたは遠慮しすぎだ……」

ワガママの体現者たる余が言うのだから間違い無い!!」

ドヤ顔で言いきると

しばらく呆けていた少女だがやがて

くす♪つと笑った

「フム、そなた初めてわらったな。そなたは笑っている顔が一番似合っておる……つともうこんな時間か、そろそろ帰る時間だ。そなたも家に帰るがよい」

「あ……」

少女が名残惜しそうな顔をする

「最後に……そなたはもう少し誰かを頼ることを覚えよ、一人で抱え込むな……よいな?」

「わかったの」

「ならば良い……ではな!!」

そう笑顔で言って去って行ってしまった

「あ!!名前を聞くのを忘れたの!!」

そして家に帰って来たが、今まで気にしなかったが記憶が戻って見ると……

でかい豪邸だな。

今まで気がつかなかったが、自分は所謂お嬢様じゃなかった、おぼっちゃまらしい。

この世界の両親は、どうやら赤ん坊の時に亡くなったようだ顔すら思い出せない。

両親が居なくなった後、ずっと自分を育ててくれたのは……。

「おかえりなさいませ!!ネロぼっちゃま!!」

メイドのリサさんである。

リサ視点

「おや?私視点ですか?では、あらためてご挨拶をさせてもらいますね?」

ネロお嬢様の専属メイドのリサです♪」

「ねえリサ、誰に向かって挨拶してるの?後自分は男」

「おっと間違えました♪あ、それと一応メイド長も兼任しております。

さてネロ様、ご飯にします?お風呂にします?それとも」お風呂で」お嬢様のイケズ」

「自分は男だつてば!!風呂に行ってくる」

「いつてらっしやいませ」♪」

さて、ネロお嬢s・・・失礼、ぼっちゃまがお風呂に行つてしまわれたので

ネロ様について語りましょうか♪

ぼっちゃまは、とても聡明な方でとても可愛らしい姿をしているんですよ?」

そして結構寂しがり屋です・・・そこが可愛いんですけどね?

特に甘えてくる時の子犬のような不安そうな顔は、とても可愛らしくてですね

特にry(以下2000文字以上続く)

話は変わりますが実にネロお嬢様は、私好みに育っていますね」

うん?逆光源氏計画?ウッフ何のことですか?

ですから私はもうすぐ小学生になるネロお嬢様が近所の悪ガk失礼、子供に影響されて

俺なんて言い出す未来は認めたくありません!!

失礼、取り乱しました。

あ、そうだ

「セバスチャン」

「」」」」」

どこからともなく現れるこの屋敷、ただ一人の執事セバスチャン

「そろそろぼっちゃまが、お風呂からあがる頃です。着替えを用意しておいて下さい」

「すでに用意しております」

「さすがね」

「お褒めに与り光栄です」

さてそれでは、夕食の準備に参りましょうか。